



診察室に若い夫婦が赤ちゃんを連れて入ってきました。先生はじつと聴診器を赤ちゃんの胸にあてていました。診察が終わると、先生はその夫婦に診断を告げました。心臓に雑音があり、心房中隔欠損症という右心房と左心房の間の壁に穴が開いている病気であること。手術が必要であること。今から35年前、私が医学生の際の病院実習でこのことです。若い夫婦は目いっぱい涙を浮かべて説明を聞いていました。

入学や就職など健康診断の季節ですが、心雑音と書かれると、先天的な病気ではないかと不安に思われるかもしれません。14歳以下の子供の場合、機能的雑音といって無害なことが多いのですが、成人が健診で指摘される心雑音には、どのようなものがあるのでしょうか。

成人の心雑音



循環器内科医

上野勝己氏

心臓は1日10万回休みなく動き、体中に血液を送り続けています。血液は全身の静脈

↓右心房↓右心室と移動し、次に肺で酸素をもらって左心房↓左心室↓全身の動脈へと循環しています。血液を効率よく一方向に流すために、弁と呼ばれる両開きのドアのよ

ドクンドクンと聞こえます。弁の閉じる音以外が聞こえる時、心雑音と呼びます。心雑音は心臓の中で血液がスムーズに流れず、乱流が起きることが原因です。成人では心雑音のほとんどは四つの弁を通る時に発生します。弁の異常によって乱流が起るわけです。

失神発作などを来し、治療が必要となります。僧帽弁の逆流は、現在は僧帽弁逸脱症といって弁組織がもろくなり、弁が完全に閉じないことが原因であることが多いです。大動脈弁の逆流も、先天的なもの、加齢による弁の変化、大動脈の拡大(大動脈瘤など)によって起きます。

弁の病気が起き、きちんと開かずに血液の通り道が狭くなっている状態を狭窄症、弁がきちんと閉まらずに血液が逆流することを閉鎖不全症や逆流症と呼びます。成人で

診断は心臓のエコー検査ですぐに確定します。現在では心臓の内圧や機能までエコー検査で分かるために、手術を前提とした重症例でない限り、入院が必要なカテーテル

大動脈の硬化が原因

うなものが心臓には付いています。四つの部屋の出口に一つずつあり、右心房のドアは三尖弁、右心室は肺動脈弁、左心室は僧帽弁、そして左心室は大動脈弁と言います。三尖弁と僧帽弁、大動脈弁と肺動脈弁の2組に分かれて交互に開いたり閉じたりを繰り返しています。正常の心臓に聴診器をあけると弁の閉じる音が

よく聞かれる心雑音は、大動脈弁の硬化や狭窄によるものが最も多く、次に僧帽弁の逆流、そして大動脈弁の逆流が原因です。

検査は行わないことが多いです。心雑音のほとんどは経過観察となることが多いので、心配せずに専門医を受診してください。状態によっては、病気を進行させないために軽い生活制限や少し薬を飲んだ方が良いでしょう。(松波総合病院心臓疾患センター長、羽島郡笠松町田代)

大動脈弁の硬化は加齢や高血圧、高コレステロール血症などが原因とされていますが、狭窄の状態にまで進行すると大動脈弁狭窄症と呼ばれる、労作時の息切れや胸痛、

大動脈弁の硬化は加齢や高血圧、高コレステロール血症などが原因とされていますが、狭窄の状態にまで進行すると大動脈弁狭窄症と呼ばれる、労作時の息切れや胸痛、

大動脈弁の硬化は加齢や高血圧、高コレステロール血症などが原因とされていますが、狭窄の状態にまで進行すると大動脈弁狭窄症と呼ばれる、労作時の息切れや胸痛、

診断はエコー検査で確定